

## 中部支部

り咳嗽出現し、胸部異常影のため当院紹介受診。右中葉無気肺および肺門部に腫瘤認め、小細胞肺癌 (T2N2M0, stage IIIA), PS 2 と診断。化学療法 (CBDCA + VP-16) を施行した。2 コース目終了後、平成 18 年 1 月イレウス症状出現し、イレウス管造影で小腸の高度狭窄と口側腸管の拡張を認めた。ダブルバルーン小腸内視鏡下に同部位生検施行し、小細胞肺癌の小腸転移と診断できた。肺癌の小腸転移は散見されるが、内視鏡下生検で生前確定診断した報告は稀であり、若干の文献的考察を加えて報告する。

### 5. スtent留置により予後延長が可能であった小細胞肺癌の 1 例

公立陶生病院呼吸器・アレルギー内科  
加藤景介, 横山俊樹, 麻生裕紀  
西山 理, 阪本考司, 木村智樹  
近藤康博, 谷口博之

症例は 51 歳, 男性。平成 14 年 7 月に肺小細胞癌と診断され、以後化学療法をうけていた。Primary lesion は右肺門であったが、平成 16 年 7 月の時点で右主気管支は病巣の進展に伴い完全狭窄となり、右胸水の貯留も加わって右肺は完全無気肺の状態となっていた。その後労作時呼吸困難の増悪を徐々に認め、8 月末には酸素吸入が必要な状態となった。病状は改善なく去痰不全に伴う desaturation が頻回にみられるようになり気管支鏡にて内腔観察したところ気管～左主気管支の壁外性の圧排による著しい狭窄を認めた。本人・家族と相談の上、症状緩和目的に同年 10 月 27 日同部に Ultra Flex Stent を留置した。その後酸素は離脱可能となり ADL も改善した。最終的には病状進行により平成 17 年 4 月永眠されたが stent 留置から半年経過しており、小細胞癌であっても適応を検討する事により stent による予後延長効果が期待できると考えられた。

### 6. 長期生存した肺小細胞癌の 1 例

藤田保健衛生大学第 2 教育病院呼吸器内科

林 信行, 立川壮一, 堀口高彦  
近藤りえ子, 志賀 守, 廣瀬正裕  
佐々木靖, 伊藤友博, 鳥越寛史  
大平大介, 小林花神, 那須利憲

畑 秀治

症例は 73 歳男性, H13 年 4 月肺小細胞癌限局型と診断。化学放射線療法を行い効果は CR。H14 年 2 月左副腎転移認め化学療法施行。左副腎腫瘍は再発繰り返し数回化学療法施行。副作用増強し H15 年 11 月左副腎腫瘍に放射線 40 Gy 施行, H16 年 8 月左副腎腫瘍摘出術を行った。H16 年 11 月腹腔内リンパ節腫脹認め数回化学療法施行。現在も外来経過観察中である。今回我々は長期生存した肺小細胞癌の 1 例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

### 7. 高齢者小細胞肺癌の検討

岐阜県立多治見病院呼吸器科

福田悟史, 村松秀樹, 有賀俊二  
吉川昌樹, 國井英治, 中谷真理子  
佐々枝里子, 森 俊之

高齢者の肺癌は増加傾向であるが治療困難な例が多い。80 歳以上の小細胞肺癌について検討した。【症例 1】88 歳男性, 右胸水にて紹介, T4N3M1, stage IV, PS1。CBDCA + VP16 投与したが骨髄抑制が強く CPT-11 単剤を投与したが第 300 病日死亡。【症例 2】82 歳男性, 血痰にて受診, T3N3M0, stage IIIB, PS1。CBDCA + VP16, 逐次併用 TRT 施行し CR。第 420 病日右副腎再発に対し CBDCA + CPT-11 投与したが骨髄抑制回復が悪く右副腎照射, CPT-11 単剤投与。第 750 病日左小脳転移出現, SRS 施行し現在外来通院中。【症例 3】83 歳女性, 咳嗽出現にて当院受診, T4N3M0, stage IIIB, PS1。CDDP + VP16 3 分割施行し PR, 外来通院中。高齢者小細胞癌の治療について若干の文献的考察を加えて報告する。

### 8. IVA 期胸腺腫に対する集学的治療

名古屋大学呼吸器外科

宇佐美範恭, 岡阪敏樹, 伊藤志門  
佐藤尚他, 内山美佳, 横井香平  
現在当院では浸潤型胸腺腫に対する化学療法のレジメンとして CAMP (CDDP + ADM + Methylprednisolone) を選択している。最近 IVA 期胸腺腫 3 例経験した。【症例 1】62 歳男性, Type B2/B3, CAPM 4 kur 施行 (PR) 後, 手術 (試験開胸), 術後放射線療法

50 Gy。【症例 2】42 歳男性, MG 合併, Type B2, CAPM 4 kur 施行 (PR), 化学療法中 MG の増悪なく, 手術は拡大胸腺全摘術のみ施行, 術後放射線療法 50 Gy。【症例 3】64 歳女性, Type B3, CAMP 3 kur 施行 (SD) の後, 切除を試み主病巣及び播種巣を含めた完全切除施行。IVA 期胸腺腫に対する CAPM を加えた集学的治療の可能性と問題点について報告する。

### 9. Carboplatin, Paclitaxel 併用療法により部分奏効 (PR), 長期の安定 (SD) がえられた胸腺癌の 2 例

静岡県立静岡がんセンター

井川 聡, 高橋利明, 中村有希子  
海老沢雅子, 浅井 暁, 小野 哲  
村上晴泰, 遠藤正浩, 伊藤以知郎  
亀谷 徹, 山本信之

2 例の胸腺癌に対して CBDCA + TXL を行ったので報告する。症例 1 は 64 歳女性。術後 13 ヶ月目に前胸壁に再発。CBDCA + TXL を計 4 コース施行し PR。症例 2 は 66 歳男性。切除不能胸腺癌。CBDCA + TXL を計 4 コース施行。SD を維持し PFS は 1 年以上で現在も継続中である。胸腺癌は非常に稀な疾患であり、標準的化学療法は確立されていないが、再発または切除不能胸腺癌に対する CBDCA + TXL による化学療法は有望な治療法となりうる事が示唆された。

### 10. 横隔膜胸膜面から発生した巨大孤立性線維性腫瘍の 1 例

藤田保健衛生大学医学部呼吸器外科

北村由香, 須田 隆, 長谷川祥子  
根木浩路, 服部良信

61 歳, 女性。主訴は胸部違和感。胸部 X 線写真にて左肺野に異常陰影および胸水貯留を認めた。CT では、左横隔膜に接して巨大な腫瘤を認め、肋間動脈や上横隔膜動脈から腫瘍血管への連続を疑う所見を認めた。腫瘍摘出術、横隔膜および肺部分合併切除を施行した。摘出腫瘍は 1360 g。術後病理診断では高度な変性を伴った solitary fibrous tumor と診断された。術後補助療法は施行せず経過観察中である。

### 11. Lymphomatoid granulomatosis の 1 例

国立病院機構長良医療センター呼吸器